

## 2025年度 学校関係者評価委員会

2026年6月5日 開催

委員長(学外) 佐伯 鋼兵  
委員(学外) 丹野 泰久  
委員(学外) 浜野 洋子  
委員(学外) 岡本 春雄  
委員(学外) 齋藤 一郎  
委員(学外) 浅見 純一

学校側

校長 増村 信雄  
副校長 島田 美紀  
総務課係長 本橋 綾子

◇本評価は2025年度の教育活動及び学校運営について、2026年6月5日に開催した学校関係者評価委員会において実施したものである。

### 1 学校の教育目標

変更なし

### 2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

本年度に定めた「重点的に取り組むことが必要な目標や計画」は、教育内容や指導力などソフト面の充実に取り組むことであった。学生一人一人に寄り添う姿勢とサポート体制が社会的に求められていることに鑑みて、安定した学生の確保に向けて「安心して学べる教育環境づくり」を目標に取り組んだ。

### 3 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

変更なし

## (2) 学校運営

⑦ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか

⑧ 情報システム化等による義用務の効率化が整備されているか

⑦ 教育活動等に関する情報公開はホームページを利用して実施されているので評価を 5 とした。

⑧ 情報システム化については、学籍データの管理やセキュリティ更新は適切に行われているものの、情報のリレーションが十分でないデータがあり、効率化向上の余地があるとして評価 4 が提案された。また、データの所在が完全に可視化されておらず、古いデータの整理も課題となっている。委員からは、システム運用の問題であり、慣れと共有の問題であるとの指摘があり、最終的に評価 4 で承認された。

## (3) 教育活動

評価に変更なし

## (4) 学修成果

③ 退学率の低減が図られているか

退学率の問題については、詳細な資料と分析が提示された。

本校の退学率については、2023-2025 年の平均で理容科 11.9%、美容科 9.3%となっており、首都圏平均の 10-15%と比較しても課題が無いとは言えないことが示された。特に 1 年前期での離脱が多く、職業適性のミスマッチ、立ち仕事や接客への不適應、学業不振、経済的理由、精神的理由が主な退学要因として挙げられた。

対応策として、総合選抜を強化した選抜基準の見直し、広報担当者のバランス調整、カリキュラムの見直しが実施されました。学びが楽しくなる学習デザインとして、日本文化の授業で文楽鑑賞や小物作り、韓国語学習、ヘアオイル作り実験などを導入している。

また、18 歳から見た魅力的な講師配置として、テクニカ授業での人気サロンの卒業生によるオムニバス形式の技術指導を実施している。

教員の意識改革では、厳しい指導から学生との伴走スタイルへの転換、トラブル報告のしやすさ向上、担任業務のインターバル制導入などが行われている。

委員からは、多様な授業内容の導入について高く評価する声があがったが、退学率軽減が継続的に維持できるまでは評価を 4 とするのが妥当であると結論された。

## (5) 教育環境

評価に変更なし

## (6) 教育環境

評価に変更なし

## (7) 教育環境評価に変更なし

(8) 教育環境

評価に変更なし

(9) 教育環境

評価に変更なし

(10)教育環境

評価に変更なし

総括

現代学生の特徴と課題

SNS の影響により直接的なコミュニケーションが減少し、同じ場所においてもスマートフォンでやり取りする現象が報告された。経済的理由による退学についても、奨学金制度の説明時期の重要性が議論された。

評価決定と閉会

退学率低減の評価について、佐伯議長より継続的な取り組みの中で良い数字を出すことの重要性が確認され、増村校長の挨拶で委員会が閉会された。

尚、この報告書は学校のホームページによって公開される。

以 上